

1.

加曾利縄文貝塚公園



加曾利貝塚遺跡



日本最大の大型縄文貝塚 加曾利貝塚探訪 千葉市若葉区加曾利

2002.6.22. kasori00.htm by M. Nakanishi



7.10.新聞を開くと前歴史民俗博物館長 佐原真氏の訃報を伝えていた。

NHK の深夜 人間講座が何かで 縄文の生活について、思いもかけず緑の縄文の輪の中で講義されている姿を見たのがつい1ヶ月前。縄文のストーンサークルとは別にこんな緑の輪があるのか・・・とビックリ。その講義されている場所が千葉市の加曾利貝塚遺跡。



加曾利 北貝塚



加曾利 南貝塚

其の時まで 縄文の貝塚の中に円環を持った広大なものがあるなど全く知らず。しかも その広い緑の輪の縁に座って縄文を語る佐原真氏の話に 青森県小牧野のストーンサークルを訪ねた時のことを重ねていました。

加曾利貝塚の名前は知っていましたが、全く知識無し。これは東北縄文のストーンサークルの関東版 是非いつてみたいと強い印象をもちました。

縄文・弥生そして古墳時代 日本の古代あけぼのの時代を判り易く解説される佐原真氏に私をふくめ、古代への扉を開いた人が沢山おられたことでしょう。

ご冥福を祈ります。



地図で加曾利貝塚を確認すると千葉市の東に広がる広大な下総台地の西の端 千葉市の市街地から少し丘陵地にたどるところで、千葉駅からこの台地上に点在する新興団地を千葉市のモノレールが結んでいる。

この加曾利貝塚の近傍は古代 東京湾の海岸線が深くはいりこんだところで、数多くの古代遺跡が点在している。またこの下総台地の東端 成田市に隣接した千葉県風土記の丘には沢山の古墳群があり、この下総台地の上には数々の古代遺跡が点在し、関東における古代の一大拠点となっていた。

6月22日梅雨空のどんよりした土曜日の午後 加曾利貝塚をたずねようと柏を出発。千葉駅でモノレールに乗り換えて約30分 市街地を抜け。緑の中を走り出し幾つかの丘陵地を越えると加曾利貝塚の最寄り駅桜木町駅。駅から住宅地を抜け、前方に見える林を目指して歩いて約15分。加曾利貝塚の大きな石碑のある林の中が広大な加曾利貝塚遺跡。

【加曾利北貝塚遺跡】



北貝塚の環の上で 2002.6.22.

私が貝塚のイメージで描いていたのとは全く相違して、林の中に広い緑の丘陵地が広がっている。

これが貝塚・・・・・・？ こんもりと盛り上がったこぶを乗り越えて林の中にはいるとそこは市街地からは隔絶された別

天地 林に囲まれた緑の空間。緑の草地に座り込んでグルッと見渡すと確かに広い草原の向こうに盛り上がっている部分が円弧に見える。加曾利北貝塚 誰もいない一人だけの縄文の空間の中にいる。

直径約百数十メートルの縄文中期 今から約5000年前から約1000年かけて円環に積み上げられた貝塚。

そしてその中央部は林の中の広いお祭り広場。この広場の一部に石棒や石組や墓などがあればこれはもう東北縄文のストーンサークルではないか・・・・

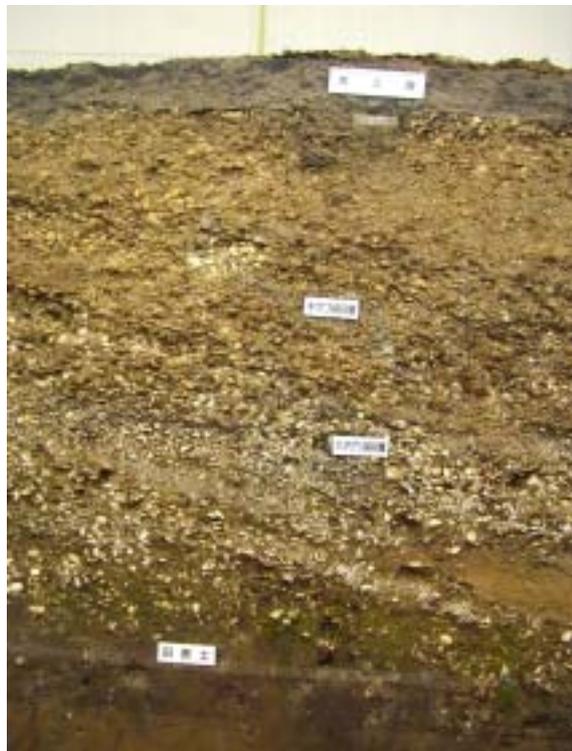
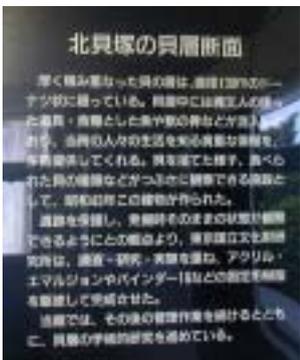
目に木々や草地の緑がやさしく語りかけ、静かな気分。やっぱり小牧野や伊勢堂岱のストーンサークル遺跡と同じ静かさの中にいられるのがうれしい。

あとで加曽利貝塚博物館へ行きわかったのであるが、やはりこの貝塚の中心部には大きな遺構はなく広場であり、その一部からストーンサークルで見られる石棒や石組が発見され、まさしく 石のない地域 関東での縄文の緑のストーンサークル。

(北貝塚では円環の外の丘陵地を平らにした部分から石棒が また北貝塚に隣接する南貝塚ではまさしく貝塚の中心部の広場から土偶や石棒が発掘されたという。

また、この円環の大型貝塚の外側には広く竪穴住居をもつ小さな集落が散在していることもわかり、この貝塚の中心部の広場が 何か祖先とつながる人たちが集まり祭りをを行う場として、意図してつくられている。まさに想像したとおりでまた ビックリ)

こんもりと盛り上がった円環の一部に建物が見え、貝塚の円環部つまり貝塚断面が見えるようになっている。中に入ると幾重にも重なった貝塚層の断面がきれいに輔算され ここが貝塚である事を示している。



北貝塚 貝塚断面観察施設 2002.6.22

北貝塚が作られた後 この貝塚に隣接して約 3500 年前の縄文後期にまた約 1000 年をかけて同じように円環状(馬蹄形状)に南貝塚が作られた。北貝塚の中心部にでなく隣接されて貝塚が作られた事から中心部の広場が意図的に使われている事が判る。

【加曽利 南貝塚】



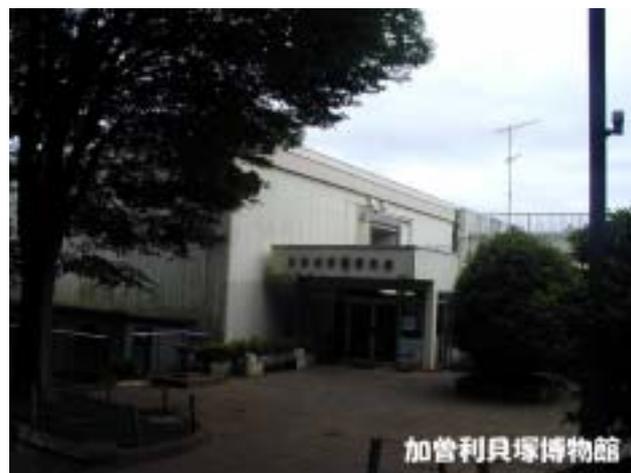
北貝塚が木立の中に保存されているのに対し、南貝塚は広い草地に整備されており、形が良く判る。また、この草地は縄文の自然を模して整備されており、数々の草花が見られるという。私が訪れた6月この貝塚一体は足の膝ほどの背丈の草に覆われていた。

これら大型貝塚が最盛期を迎える縄文中・後期は同時に東北のストーンサークルが各地に出現する時期と重なっており、この大型貝塚にストーンサークルをかさねるのも、あながち根拠のないものとは思えない。

そして、その理由はわからぬが、大型貝塚もストーンサークルも縄文晩期になると衰退してしまう。また、沢山の縄文集落があった東京湾岸も衰退し、中部や東北へと人たちの移動が始まる。



復元 竪穴住居群



加曽利貝塚博物館

この草原の向こうに居住区の竪穴住居の集落が復元され、南貝塚の草原越しにそれが見える。南北貝塚のちょうど間の丘陵地の斜面に千葉市加曽利貝塚博物館があり、加曽利貝塚を中心としたこの下総台地での縄文の暮らしや出土品そして 日本の黎明 縄文時代の暮らし等がわかりやすい解説とともに展示

されている。貝塚に併設された貝塚断面観察施設や発掘された住居跡観察施設などの野外施設とあわせ、この加曾利貝塚遺跡公園が野外ミュージアムとして保存されている。



貝塚博物館から北貝塚の縁を下る坂道

貝塚博物館のところから林の中の坂道を降りてゆくと坂月川が流れる丘陵地の下に出る。川に沿って狭い田園地が広がりその両側が丘陵地になっている。ここが当時の加曾利貝塚の入口船着場。まさしく 坂月川の右岸の林に覆われた丘陵地が加祖利貝塚 丘陵地の上に縄文の集落があったことが良く判る。



加曾利貝塚の下を流れる坂月川と縄文時代の船着場 遠方丘陵地を渡るモノレール

丘陵地と丘陵地のあいだを流れる坂月川を渡って現在の象徴モノレールが走っている。

ゆっくりと川沿いを歩いてモノレールの駅へ



円環状の大型貝塚の存在すら知らなかったが、東北の縄文のストーンサークルとの感覚的な類似性にもうビックリ。何の根拠もないが 縄文人の奥底の中にある円環へのこだわりと具現された円環の中に立って感じる静かさに縄文の心 日本人の精神のルーツを感じた1日でした。

本当に 市街地であって 人っ子一人いない広大な緑の円環の中に立てる場所なんて早々になし。

ゆっくり 空を見上げて 思いにふけるのもよし 草地を歩きながら野草に思いをはせるのもよしである。

でもなんで 何の兆候もなく この広大な円環を作った人達が忽然と消え去ったのか・・・
縄文の円環と其の中に広がる広場そして石組みは果たして言われている通りだろうか・・・

今年の中秋の名月 縄文のお月見会は 青森県三内丸山遺跡だけでなく岩手県一戸町岩館の御所野遺跡・秋田県鹿角 大湯のストーンサークルと三ヶ所タイアップしたイベントとして企画していると聞きました。
いずれも故佐原真氏が熱っぽく縄文を語られた地 これに次は加曽利の貝塚が加われば・・・
今年は そんな事も考えながら 縄文の月見を楽しみにしている。

2002. 7.11. 逝かれた故佐原真氏をしのびつつ 加粗利貝塚探訪をまとめて



縄文のストーンサークル 青森 小牧野遺跡



縄文の円環(馬蹄形) 大型貝塚 千葉県 加曽利貝塚遺跡

加曾利貝塚の概要



千葉市の市街地に隣接して東につらなる丘陵地 下総台地があり、その裾野を千葉市の中央東西に貫く都川が流れる。加曾利貝塚はこの都川の支流坂月川の右岸の丘陵地 ちょうど下総台地の西端に位置するあ日本最大規模の縄文時代の貝塚。この都川や坂月川に沿う丘陵地には数多くの縄文貝塚や集落があり、関東の縄文集落の一大拠点である。



加曾利貝塚は直径 130m で環状の縄文中期の北貝塚と長径 170m で馬蹄形の縄文後期の南貝塚が連結した形で存在し、現在は、この貝塚が存在する丘陵地の森全体約 13.4ha が国の史跡に指定され、併設された博物館と共に遺跡全体を展示物と考えた野外博物館として史跡公園に整備されている。



下総台地 加曾利貝塚周辺の縄文集落と貝塚群



加曾利 北貝塚 〔縄文中期 5000年前〕



加曾利 南貝塚 〔縄文後期 3500年前〕

加曾利貝塚 2002.6.



加曾利貝塚は直径 130mで環状の縄文中期の北貝塚と長径 170mで馬蹄形の縄文後期の南貝塚が連結した形で存在し、ダイナミックな断面を比較して見学できる貝塚断面観覧施設はじめ、竪穴住居跡群観覧施設や復原集落や園路・説明板などが整備されている。また、園内の森や貝塚周辺は、縄文後期の自然環境をベースに復元・整備され、無農薬で、定期的な草刈り管理を行っているため、稀少在来植物の宝庫でもあります。



加曾利貝塚 貝塚断面観察施設

貝塚が形成された縄文中期には気候が温暖で東京湾は房総半島の奥深くまでうみが入り込み、利根川、手賀沼、印旛沼は一つの海で、広大な関東平野のあちこちが湿地が数多く、この付近まで海岸がせまっておりました。房総は全般的に湧き水が多く台地状になっているところが多いため、大変住みやすい土地柄で加曾利貝塚はじめ多くの貝塚が集中し、縄文時代の人々の生活の中心地でありました。

【参考】

長い氷河期が終わった縄文時代は温暖な時代で、平均で現在より気温は2度ほど高く、植物や動物の楽園となりました。

特に広く森林が覆っていた東日本一帯（中部～関東、東北）は人々の生活の中心地になりました。当時 これを縄文海進と呼んでいます。

縄文草創期	縄文早期	縄文前期	縄文中期	縄文後期	縄文晩期
10000B.C.～	7000B.C.～	5000B.C.～	3000B.C.～	2000B.C.～	1000B.C.～300B.C
12000年前～	9000年前～	7000年前～	5000年前～	4000年前～	3000年前～



この加曾利貝塚には今から 7500 年前の縄文前期に人が住み始め、縄文中期にあたる 5000 年前から貝塚が作られました。もっとも栄えたのは縄文後期の 3500 年前ごろで、貝殻の量も多くなり、北貝塚から南貝塚に移動したことが数度に渡る発掘調査で明らかになってきました。

〔北貝塚 住居跡群観察施設〕



この北貝塚の貝層の下からはさらに古い中期初頭の住居跡が発掘され、この事から北貝塚は最初から環状であったのではなく、初期小型貝塚と住居が後の環状貝塚の部分に次々と移動して創られ環状が形成されたと考えられています。つまり縄文中期に千年近くかけて、直径約 130m の北貝塚が作られたと考えられています。また、当初 北貝塚の集落は貝塚付近に環状に住居が分布すると考えられていましたが、貝塚の周辺地域 つまり加曾利貝塚公園の内外の広くに縄文中期の小型貝塚や住居跡が広く分布していることが判ってきました。縄文後期になると、北貝塚を増築することを止め、南貝塚を作り始め、また約千年かかって大型馬蹄形貝塚が隣接して作られます。

おもしろいことは、北貝塚の増築を止めた時点でも貝塚の中央には遺構がなく、中央の場所には貝層が作られなかった。この事は南貝塚や他の大型の環状でもほぼ同じで、環状の貝塚の中心部は貝も捨てられず遺構もなく意図的に広場が形成されている。この大型貝塚における中央広場の存在は貝塚の形成と直接関係があり、集落における大型貝塚の存在意義を解く重要な鍵となると考えられていますが、その理由は良く判っていません。

この時期 大型貝塚を伴う遺跡が数多く発達し、ここでは長期にわたり存続定住生活がいとままれる。一方同時に遺跡数の大多数を占めている貝塚を伴わない集落や小型貝塚を伴う集落が共存しており、この小型の集落では比較的短期間で次々と移動している。

この定住型の大型貝塚をともなう大集落と小型で移動型の集落の関係も色々考察されているがもう一つはっきりしていない。

その後、約 3000～2500 年前(縄文晩期)になると、発達していた大型貝塚が関東地方から姿を消し、加曾利貝塚からも人の痕跡が消えてしまいます。

また、同時に小型貝塚を伴う集落も貝塚を伴わない集落も急に減少し、東京湾沿岸にはごくわずかな集落が分散して残されるだけになり、村人達は関東地方から東北地方や中部地方に分散して行ったと考えられている。このような人口の大移動が起こった理由については気候の変化による植生の変化が食料調達の変化をもたらした社会を変革したなどが仮説として考えられていますが、今も大きなナゾとなっています。

加曾利貝塚が示す縄文の暮らし

加粗利貝塚の集落はじめとしたこの関東地方の縄文の暮らしについては様子については出土品の分析からおおくのことが判ってきた。

【狩猟具の製作と食糧】

千葉県には石材があまりありませんが、同じ「石なし県」にありながら加曾利貝塚のように、石鏃もその原石や破片も乏しいのに獣の骨が豊富に出土する集落がある一方、船橋市高根木戸貝塚などでは獣の骨は少ないのに製品も石材も大量に出土する村がある。この事から原石をとり寄せて、もっぱら石器を加工する村と、その製品をとり寄せて消費する村とが共存していたことを物語っており、一部村の分業も進んできた事がわかる。

また、縄文中期の貯蔵用土器には、グロテスクな顔やヘビなどを内側に向けて彫刻したものが多く発見されおそらくこの土器の中には、村人たちにとって大事な食糧やトリカブトなどの毒汁が貯えてあって、盗み食いをしたり手に触れたりするのを禁じていたものとされています。

貝塚には、偶然貝殻の下になった獣や鳥の骨だけが貝のカルシウムのため保存されるので実際に食べられた獣や鳥の寮は出土する量よりももっと多かったと思われます。

食べられた獣ではイノシシとシカが最も多く、肉の量は貝の身などよりはるかに多いと考えられています。

【土偶】

貝塚の中心部

南貝塚の中心には、貝も捨てず住居址も少ない広場があり、土偶や石鏃や埋葬人骨が集中して発見されています。芋貝加工の共同生産では、日当りのいい芋場になっていたに違いありません。

そのほか、この中央広場では、この地方からは産出しない硬い石材などと芋貝とを交換する共同交易や、むらびとの結婚式、安産の祈り、死者のどむらい、先祖の霊まつりなどの共同祭祀を行う場となっていました。いわば、この地域のむらむらの重いの場であったと考えられます。



▶ 土偶
赤ん坊が無事に生まれるように祈る。一種の「お代」(かたしろ)。



▲ 冥棺 (かめかん) 流産・死産した赤ん坊は壺の中に納めて、ていねいに埋葬する。



土偶は、縄文中期から後・晩期にかけて次第に多くなり、各地の遺跡で見つかっており、女性をかたどり、腹部が大きく妊娠を表わしているものが多い。当時の女性は、妊娠すると自分の身代りとしてこの人形を作り安産を祈りました。そして無事に生まれると叩き割ります。流産や死産の場合はこの人形をそのまま土の中に埋めて、再び子宝が授かるように祈ったのではないかと考えられています。

加曾利貝塚でも馬蹄形をした南貝塚の中心部の広場などから多数見つかっている。

隣接された加曾利貝塚博物館には 縄文のビーナスとして名高い長野県茅野

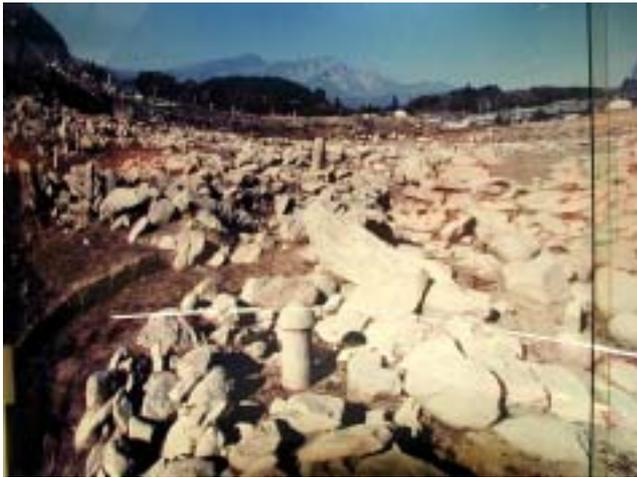
市米沢の棚畑遺跡の土偶や青森亀ヶ岡の遮光器土偶・三内円山遺跡の板状土偶など日本各地で発見された色々なタイプの土偶(複製)が展示されている。

【縄文のシンボル 石棒】

縄文のシンボルとして数多くの石棒が加曽利の貝塚からも多数出土している。

縄文の中期から後期にかけて村の一角に細長い自然石を立てたり、日時計のように自然石が敷き詰められた石組みに棒状の石を横たえた場所などが各地で発見されている。

これは血のつながった人たちが 収穫や死者・出産・成人などの報告をその先祖にする祭りを営む場所のシンボルとして置かれたものでないかといわれている。



縄文中期・後期にかけての遺跡で発見される縄文のシンボル 石棒



加曽利北貝塚のはずれ 石棒と拾い住居跡が出土した広場

加曽利北貝塚の端の丘を台地状にならした場所から広い住居跡と共にこの石棒が出土している。

また、南貝塚の中心部の広場からも大量の石棒や土偶が発見されている。

村の先祖をまつるシンボルだった考えられるこの石棒が、後・晩期になるとにわか小型化し刀剣の形になってゆく。

当時は女性を中心とする母系社会ですが、村が安



定し豊かになるにつれて外敵があらわれます。呪術者などの特定の男性が中心となって、村の安全を守る重要な役割を持ち男性が次第に地位を高めていったものと考えられている。

縄文後期最盛を迎える大型環状貝塚と環状列石群(ストーンサークル)



ストーンサークルの日時計状石組



ストーンサークル

秋田県鹿角 大湯のストーンサークル



加曾利 北貝塚

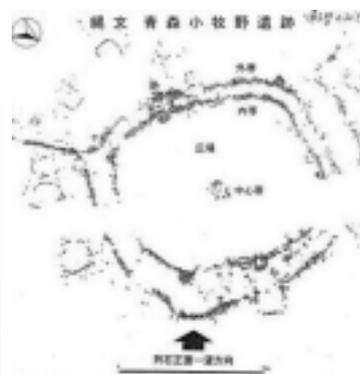
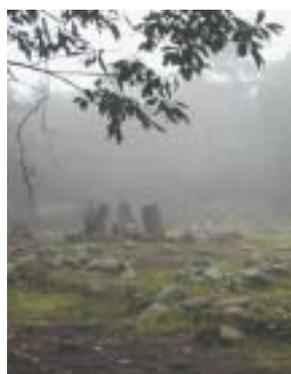
加曾利 北貝塚 〔縄文中期 5000 年前 〕



加曾利 南貝塚

加曾利 南貝塚 〔縄文後期 3500 年前 〕

加曾利貝塚遺跡に来て その環状の貝塚の中に立った時、「これは 小牧野や大湯のストーンサークルとおなじや・・・」と思い、ここにあの石組みがあれば、まさに同じと・・・。



青森県 小牧野遺跡 縄文後期

大型の円環・馬蹄形をした加曾利貝塚の中央の広場から石棒が出土し、そして その周りに広く集落がある

のを知って これはもう縄文のパターンそのものと感じました。

時代の流れについては きっちり考証しないとイケないが、大型環状貝塚は石のない土地でのストーンサークルではなかったか・・・・

この関東における大型の貝塚や集落が突如消え、東北や中部に縄文人が分散して行く過程で 東北の大型のストーンサークルも消えてゆく・・・・

日本人の精神構造の根底にこの円環があると言われるが縄文人の円環にかけの思いにびっくりするが、この円環の中に立つと自然と心静かに落ち着く。霧のあの小牧野遺跡で感じたのと同じ気分。

まさに何か不思議なつながり これが日本人の根底にある心情かもしれない。



秋田県 伊勢堂岱遺跡 縄文後期



秋田県鹿角 大湯のストーンサークル 縄文後期

加曽利貝塚で見た縄文の各種タイプの土偶



